

岡地証券株式会社 岡地 貞一郎社長 インタビュー

東海地区を地盤とする地場証券会社である、岡地証券株式会社（名古屋市中区栄）の社長に岡地貞一郎氏が4月1日付で就任した。創業78年の伝統を誇り、個人投資家向けの丁寧なコンサルティングで知られる。新社長は次世代に資産運用を引き継ぐためのアドバイスなど新たな戦略を模索する。また、セミナーや勉強会を通じて、資産形成・資産運用に縁のなかった層へのアプローチも視野に入れ、投資家のすそ野拡大に意欲を見せる。新社長に活況を呈する株式市場の見方などを聞いた。



—抱負をお聞かせください。

岡地貞一郎社長 当社はこの5月で創業78年を迎えました。私の抱負として、まずは80年、そして90年、100年と実績と歴史を重ねていくこと、そして「お客様一人ひとりが豊かさを感じ、それが地域の豊かさにつながる」ことを実践する会社にするということです。

最近若い人たちを中心に、資産形成・資産運用の重要性への理解が広がり、NISA（少額投資非課税制度）等のキーワードも日常会話で耳にするようになりました。そのため、これから始める方々へのサポートがますます大事になると考えています。今年の1月には名古屋証券取引所と共催で、株主優待を上手に活用している桐谷広人さん（将棋棋士、投資家、日本テレビ「月曜から夜ふかし」出演で財テク棋士・株主優待生活者として人気を得る）の講演会を開催しました。また、当社社員が講師となり、大学のゼミ生を対象にマーケット動向に関する勉強会も実施しました。今後もこうした機会を増やし、投資家人口のさらなる拡大に取り組んでいきます。資産形成・資産運用を通じて、お客様の豊かさや地域の発展に貢献してまいります。

—御社発展の経緯、要因は。

岡地社長 当社は私の曾祖父が1948年5月に創業しましたが、実質的には祖父が経営を担いました。祖父は、東海三県で事業エリアを拡大し、他の証券会社が拠点を置いていない地域にも支店・営業所を開設しました。一色店、江南店や可児店などは、当社の特色を

生かした独自戦略の一例です。また、1986年に取得した東京証券取引所の会員権と、その後のバブル期における証券市場の活況も発展に寄与しました。

一方で、2008年の金融危機や東日本大震災、パンデミックなどの厳しい局面を乗り越えたことが、現在の当社につながっています。新商品の導入や地域金融機関との提携なども進めてきましたが、これらは長年積み重ねてきた信頼と信用による人脈やネットワークがあったからこそ実現できたものです。なお、これまでの発展において、私自身忘れてはならないことは、当社を信頼してお取引いただいたお客様と、お客様のために尽力してきた役職員の存在です。

—5月上旬、日経平均株価が6万3,000円台を記録、1日の上げ幅も過去最大でした（2026年5月8日時点）。どう見ましたか。

岡地社長 日経平均株価が6万3,000円台をつけ、1日の上げ幅も過去最大となったことは、日本株に対する国内外の評価が大きく変わりつつあることを示す象徴的な出来事だったと受け止めています。企業の資本効率改善や株主還元の強化、デフレ脱却への期待に加え、海外投資家からの資金流入も相場を押し上げた要因と考えています。

一方で、今回の上昇が日本株全体の強さをそのまま表しているわけではありません。日経平均は指数への寄与度が大きい一部銘柄の影響を受けやすく、個別銘柄を見ると値動きにはばらつきも見られました。株式市場は一